

(第一類 第一號)

第五十三回国会 内閣委員会議録 第二号

(一七)

昭和四十一年十二月二十日(火曜日)

午後五時十二分開議

出席委員

委員長

木村 武雄君

理事

伊能繁次郎君

理事

辻寛

一君

理事

細田

大石

八治君

吉藏君

渡海

元三郎君

灘尾

弘吉君

橋本

龍太郎君

野呂

恭一君

藤尾

正行君

前田

正男君

塙

徹郎君

上村

千一郎君

國務大臣

國務大臣

塙原

俊郎君

総理府

総務副長

官房

事務官

岩倉

規夫君

で委員に選任された。

同日

委員大石八治君、大西正男君、渡海元三郎君、灘尾弘吉君及び橋本龍太郎君が辞任につき、その補欠として周東英雄君、荒船清十郎君、赤城宗徳君、堀内一雄君及び賀屋興宣君が議長の指名で委員に選任された。

一二月二十日

旧勅章年金受給者に関する特別措置法案(第五号)

十一回国会衆法第五七号)(參議院送付)

は本委員会に付託された。

十二月二十日

閉会中審査に関する件

旧勅章年金受給者に関する特別措置法案(第五号)

請願

一日

旧軍人恩給に関する請願外五十一件(小

川平二君紹介)(第一号)

二

同外四件(小坂善太郎君紹介)(第二号)

三

同外四十九件(鷹藤一馬君紹介)(第三号)

四

同外二十八件(羽田武嗣郎君紹介)(第四号)

五

同外十六件(濱田幸雄君紹介)(第五号)

六

同外三十件(曾田甲子七君紹介)(第六号)

七

同外七件(浦野幸男君紹介)(第六号)

八

同外十件(唐澤後樹君紹介)(第七号)

九

同外十八件(廣瀬正雄君紹介)(第六号)

一〇

同(安藤覺君紹介)(第六号)

一一

同外十件(今松治郎君紹介)(第六号)

一二

同外十六件(宇野宗佑君紹介)(第六号)

一三

同外六十五件(植木房子郎君紹介)(第六号)

一四

同(小川半次君紹介)(第六号)

三四

同外六件(大竹太郎君紹介)(第一二二号)

四〇

同外六件(鍛冶良作君紹介)(第一三三号)

四一

同外二十二件(倉成正君紹介)(第一三四号)

四二

同(小泉純也君紹介)(第一三五号)

四三

同外五件(櫻内義雄君紹介)(第一三六号)

四四

同外三十九件(關谷勝利君紹介)(第一三

七号)

四五

同外七件(辻寛一君紹介)(第一三八号)

七号)

四六

同(徳安實藏君紹介)(第一四〇号)

四七

同外二件(中島茂喜君紹介)(第一四一号)

四八

同外六件(野田武夫君紹介)(第一四二号)

四九

同(古井喜實君紹介)(第一四三号)

五〇

在外私有財産国家補償に関する請願(小

川平二君紹介)(第七号)

五一

同(小坂善太郎君紹介)(第八号)

五二

同(羽田武嗣郎君紹介)(第九号)

五三

同(唐澤後樹君紹介)(第十八号)

五四

同(鷹藤一馬君紹介)(第八五号)

五五

同(増田甲子七君紹介)(第六六号)

五六

同(大坪保雄君紹介)(第一四三号)

五七

同(三池信君紹介)(第一四四号)

五八

善意の日割定に関する請願(浦野幸男君紹介)(第一五号)

五九

傷病恩給等の不均衡是正に関する請願(小川半次君紹介)(第八三号)

六〇

同(原健三郎君紹介)(第一四五号)

六一

靖國神社の國家認持に関する請願(小川半次君紹介)(第八四号)

六二

恩給、年金等受給者の処遇改善に関する請願(辻寛一君紹介)(第八八号)

六三

中小企業省設置に関する請願(太郎君紹介)(第一二一號)

六四

旧軍人恩給に関する請願外七件(井出一

六五

太郎君紹介)(第三二一號)

六六

同外六件(草野一郎平君紹介)(第三二三

六七

号)

六八

同外十六件(賀屋興宣君紹介)(第三二四

六九

号)

七〇

同外六件(太郎君紹介)(第一二三四

七一

号)

七二

同外十六件(倉石忠雄君紹介)(第三二一

七三

四四

同(大石八治君及

七四

号)

七五

同(赤城宗徳君及

七六

号)

七七

同(周東英雄君及

七八

号)

七九

同(井出一雄君及

八〇

号)

八一

同(大石八治君及

八二

号)

八三

同(大石八治君及

八四

号)

八五

同(大石八治君及

八六

号)

八七

同(大石八治君及

八八

号)

八九

同(大石八治君及

九〇

号)

九一

同(大石八治君及

九二

号)

九三

同(大石八治君及

九四

号)

九五

同(大石八治君及

九六

号)

九七

同(大石八治君及

九八

号)

九九

同(大石八治君及

一〇〇

号)

一〇一

同(大石八治君及

一〇二

号)

一〇三

同(大石八治君及

一〇四

号)

一〇五

同(大石八治君及

一〇六

号)

一〇七

同(大石八治君及

一〇八

号)

一〇九

同(大石八治君及

一〇一〇

号)

一〇一

同(大石八治君及

一〇一一

号)

一〇一二

同(大石八治君及

一〇一二

号)

一〇一三

同(大石八治君及

一〇一四

号)

一〇一五

同(大石八治君及

一〇一六

号)

一〇一七

同(大石八治君及

一〇一八

号)

一〇一九

同(大石八治君及

一〇二〇

号)

一〇二一

同(大石八治君及

一〇二二

号)

一〇二三

同(大石八治君及

一〇二四

号)

一〇二五

同(大石八治君及

一〇二六

号)

一〇二七

同(大石八治君及

六八 同(田川誠一君紹介)(第三一五号)	九二 (榎木庚子郎君紹介)(第五三七号)	一二八 同(田川誠一君紹介)(第八六一号)	一四一 同外一件(佐藤洋之助君紹介)(第一二〇号)
六九 同(中馬辰猪君紹介)(第三一六号)	九三 同外九件(田村良平君紹介)(第五三九号)	一二九 同外六件(田邊國男君紹介)(第八六二号)	一四二 同外一件(中馬辰猪君紹介)(第一二〇七号)
七〇 同外十一件(床次徳二君紹介)(第三一七号)	九四 同外二件(西村直己君紹介)(第五四二号)	一二〇 同外一件(丹羽喬四郎君紹介)(第八六三号)	一四三 同外百十八件(永山忠則君紹介)(第一二〇八号)
七一 同外二十七件(西村英一君紹介)(第三一九号)	九五 同外四件(細田吉藏君紹介)(第六四四号)	一二一 同外二件(相川勝六君紹介)(第一〇三七号)	一四四 同外六件(福田赳夫君紹介)(第一二〇九号)
七三 同外八件(福田繁芳君紹介)(第三二〇号)	九六 同外十件(高瀬傳君紹介)(第六四六号)	一二二 同外三十四件(長谷川四郎君紹介)(第八六四号)	一四五 同外一件(中馬辰猪君紹介)(第一二一〇号)
七四 同外五十四件(山本勝市君紹介)(第三二一号)	九七 同外十五件(田中六助君紹介)(第六四七号)	一二三 同外一件(馬場元治君紹介)(第八六五号)	一四五 同外一件(中馬辰猪君紹介)(第一二一〇号)
七五 同(渡辺美智雄君紹介)(第三二二号)	九八 同外八件(江崎眞澄君紹介)(第六八三号)	一二四 同(池田清志君紹介)(第一〇三八号)	一四五 同外六件(福田赳夫君紹介)(第一二〇九号)
七六 同外八件(大橋武夫君紹介)(第四四六号)	九九 同外八件(山崎巖君紹介)(第六四八号)	一二五 同(大久保武雄君紹介)(第一〇三九号)	一四六 同外十七件(山中貞則君紹介)(第一二二一号)
七七 同外一件(中馬辰猪君紹介)(第四四七号)	一〇一 同外八件(山崎巖君紹介)(第六四九号)	一二六 同外十一件(中馬辰猪君紹介)(第一〇四〇号)	一四七 同(山村新治郎君紹介)(第一二二二号)
七八 同外一件(登坂重次郎君紹介)(第四四八号)	一〇二 同外八件(江崎眞澄君紹介)(第六八三号)	一二七 同(馬場元治君紹介)(第一〇三四号)	一四八 同外四十六件(大野明君紹介)(第一二二五三号)
七九 同外十二件(床次徳二君紹介)(第四四九号)	一〇三 恩給、年金等受給者の処遇改善に関する請願	一二八 同外十一件(中馬辰猪君紹介)(第一〇四二号)	一四九 同外二件(正力松太郎君紹介)(第一二五四号)
八〇 同(毛利松平君紹介)(第四五〇号)	一〇四 人事院勧告の完全実施等に関する請願	一二九 同(馬場元治君紹介)(第一〇四三号)	一五〇 同外七件(井原岸高君紹介)(第一二三四一号)
八一 同外一件(森下元晴君紹介)(第四五一号)	一〇五 同(山花秀雄君紹介)(第五四五号)	一二〇 同外六十六件(田中龍夫君紹介)(第一〇四四号)	一五一 同外六八件(保科善四郎君紹介)(第一三四二号)
八二 同外六十件(渡辺栄一君紹介)(第四五二号)	一〇六 同(山花秀雄君紹介)(第五五六号)	一二一 同(地崎守三郎君紹介)(第八一〇号)	一五二 同外六六件(川野芳満君紹介)(第一四一七号)
八三 傷病恩給等の不均衡是正に関する請願	一〇七 同(鈴木茂三郎君紹介)(第五四五号)	一二二 傷病恩給等の不均衡是正に関する請願	一五三 同外一件(中山榮一君紹介)(第一四一八号)
(伊能繁次郎君紹介)(第三三三号)	一〇八 公務員給与等に関する請願(田中武夫君紹介)(第六五〇号)	一二三 傷病恩給等の不均衡是正に関する請願	一五四 同(南好雄君紹介)(第一四一九号)
八四 同(中馬辰猪君紹介)(第三三四号)	一〇九 行政職俸給表等職員の労働条件改善に	一二四 在外私有財産国家補償に関する請願(池田清志君紹介)(第一〇四五号)	一五五 同外四件(大西正男君紹介)(第一四三三号)
八五 埼玉県神社の國家護持に関する請願(吉川兼光君紹介)(第三六号)	一一〇 旧軍人恩給に関する請願(安藤覺君紹介)(第八〇四号)	一二五 恩給の増額に関する請願(池田清志君紹介)(第一〇六四号)	一五六 中小企業省設置に関する請願(佐藤洋之助君紹介)(第一二二二三号)
八六 柏市大室地区のホール・ミサイル基地建設に対する請願(木村武雄君紹介)(第三五五号)	一一一 同外十件(床次徳二君紹介)(第八〇五号)	一二六 同外十七件(渡海元三郎君紹介)(第八〇六号)	一五六 同外四件(大西正男君紹介)(第一二二四号)
八七 同和対策審議会答申の完全実施に関する請願(岡崎英一君紹介)(第四五三号)	一一二 同外十七件(渡海元三郎君紹介)(第八〇七号)	一二七 恩給、共済年金等の改善に関する請願(池田清志君紹介)(第一〇六五号)	一五六 同外四件(泊谷裕夫君紹介)(第一二五五号)
八八 元南溝州鉄道株式会社職員であつた公務員等の恩給等通算に関する請願(岡崎英一君紹介)(第四五三号)	一一三 同外一件(中馬辰猪君紹介)(第八〇九号)	一二八 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇三号)	一五六 同外四件(泊谷裕夫君紹介)(第一二五五号)
八九 在外私有財産国家補償に関する請願(井手以誠君紹介)(第五三六号)	一一四 同(羽田武嗣郎君紹介)(第八〇八号)	一二九 同外三十件(藏内修治君紹介)(第一二〇四号)	一五六 同外一件(泊谷裕夫君紹介)(第一二一五号)
九〇 同(中澤茂一君紹介)(第六五一号)	一一五 同(地崎守三郎君紹介)(第八〇九号)	一三〇 旧軍人恩給に関する請願(内田常雄君紹介)(第一二〇二号)	一五六 同外四件(泊谷裕夫君紹介)(第一二五五号)
九一 傷病恩給等の不均衡是正に関する請願	一一六 同(岩動道行君紹介)(第八五九号)	一三一 旧軍人恩給に関する請願(内田常雄君紹介)(第一二〇二号)	一五六 同外一件(泊谷裕夫君紹介)(第一二一五号)
○	一一七 同外十九件(池田清志君紹介)(第八六六号)	一三二 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇三号)	一五六 同外四件(泊谷裕夫君紹介)(第一二五五号)
一四〇 同外四件(綾瀬彌三君紹介)(第一二〇五号)	一三三 同外三十件(藏内修治君紹介)(第一二〇四号)	一三三 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇三号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)
一四一 同(横路節雄君紹介)(第一三三四号)	一三四 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一三四 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)
一四二 同(横路節雄君紹介)(第一三三四号)	一三五 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一三五 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)
一四三 同(横路節雄君紹介)(第一三三四号)	一三六 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一三六 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)
一四四 同(横路節雄君紹介)(第一三三四号)	一三七 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一三七 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇二号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)
一四五 同(横路節雄君紹介)(第一三三四号)	一三八 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇三号)	一三八 同(仮谷忠男君紹介)(第一二〇三号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)
一四五 同(横路節雄君紹介)(第一三三四号)	一三九 同外四件(綾瀬彌三君紹介)(第一二〇五号)	一三九 同外四件(綾瀬彌三君紹介)(第一二〇五号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)
一四六 同(横路節雄君紹介)(第一三三四号)	一四〇 同外四件(綾瀬彌三君紹介)(第一二〇五号)	一四〇 同外四件(綾瀬彌三君紹介)(第一二〇五号)	一五六 同(南好雄君紹介)(第一二二二三号)

紹介)(第一二二六号)

一六二 同(鎌木茂三郎君紹介)(第一二五八号)

一六三 同外五件(本島百合子君紹介)(第一二五九号)

一六四 恩給、年金受給者の処遇改善に関する請

願(赤城宗徳君紹介)(第一二五一号)

一六五 稅務職員の賃金引上げに関する請願(平

林剛君紹介)(第一二五六号)

一六六 在外私有財産国家補償に関する請願(下

平正一君紹介)(第一二五七号)

一六七 元南満州鉄道株式会社職員であつた公務

員等の恩給等通算に関する請願外二十三

件(保科善四郎君紹介)(第一二三四三号)

一六八 旧軍人恩給外地加算年の不均衡是正に関

する請願(有田喜一君紹介)(第一四一六

号)

一六九 佐藤内閣総辞職及び衆議院解散に関する

請願(加藤進君紹介)(第一二四五号)

一七〇 同(林百郎君紹介)(第一四三六号)

一七一 松代群発地震地域の災害特別地域指定に

関する請願(唐澤俊樹君紹介)(第一六〇号)

一七二 同(小坂善太郎君紹介)(第六一號)

一七三 同(羽田武嗣郎君紹介)(第六二號)

一七四 同(増田甲子七君紹介)(第六三號)

一七五 同(小川平二君紹介)(第一七五号)

一七六 同(吉川久衡君紹介)(第一七六号)

一七七 同(倉石忠雄君紹介)(第一七七号)

一七八 同(井出一太郎君紹介)(第四四一號)

一八二 同(原茂君紹介)(第一三四〇号)

○木村委員長 これより会議を開きます。

おはかりいたします。

この際、本日參議院より送付せられました旧勲

章年金受給者に関する特別措置法案を議題とし、

審査を行ないたいと存じますが、これに御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○木村委員長 御異議なしと認めます。

それでは旧勲章年金受給者に関する特別措置法案を議題といたします。

旧勲章年金受給者に関する特別措置法案

(小字及び一は參議院修正)

旧勲章年金受給者に関する特別措置法

(この法律の趣旨)

第一条 この法律は、旧勲章年金受給者のかつて受けた経済的処遇が失われたこと等の事情にかんがみ、その処遇の改善を図るために特別の措置として一時金を支給することに関する定めものとする。

(一時金の受給権者)

第二条 昭和二十年十一月三十一日において旧金

鶴勲章年金令(明治二十七年勅令第百七十三号)による年金(同令第三条の規定によるもの)を除く。)を受ける権利を有していた者で昭和三十

八年四月一日に日本の国籍を有していたもの(以下「旧勲章年金受給者」という。)には、一時

金を支給する。

(一時金の額)

第三条 一時金の額は、十万円とする。

(認定)

第四条 一時金を受ける権利の認定は、これを受けようとする者の請求に基づいて、内閣総理大臣が行なう。

(時効)

第五条 一時金に関する処分についての異議申立ては、時効の中斷については、裁判上の請求とみなす。

(時効の中断)

第六条 一時金に関する処分については、四年間行なわないときは、時効によつて消滅する。

(受給権の保護)

第七条 一時金を受ける権利は、譲り渡し、担保に供し、又は差し押えることができない。

(非課税等)

第八条 一時金については、その支給を受けた者で昭和四十一年七月一日においてその支給を受けることができるものには、一時金として三万円を支給する。この場合においては、第四条及び第五条から第十二条までの規定を準用する。

第九条 内閣総理大臣は、前項の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十条 郵政大臣は、前項の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第十三条 内閣総理大臣は、この法律の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十四条 この法律に規定するもののほか、この法律の実施のための手続その他その執行について必要な事項は、総理府令で定める。

金を請求することができる。

前項の場合において、同順位の相続人が数人あるときは、その一人のした一時金の請求は、全員のためにその全額につきしたものとみなし、その一人に対してした一時金を受ける権利の認定は、全員に対してもしたものとみなす。

(異議申立期間)

第七条 一時金に関する処分についての異議申立てに関する行政不服審査法(昭和三十七年法律第百六十号)第四十五条の期間は、その処分の通知を受けた日の翌日から起算して一年以内とする。

(事務の委任)

第八条 一時金に関する処分についての異議申立ては、時効の中断については、裁判上の請求とみなす。

(時効)

第九条 一時金を受ける権利は、四年間行なわないときは、時効によつて消滅する。

(受給権の保護)

第十条 一時金を受ける権利は、譲り渡し、担保に供し、又は差し押えることができない。

(非課税等)

第十二条 一時金については、その支給を受けた者で昭和四十一年七月一日においてその支給を受けることができるものには、一時金として三万円を支給する。この場合においては、第四条及び第五条から第十二条までの規定を準用する。

第十三条 内閣総理大臣は、この法律の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十四条 この法律の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十五条 郵政大臣は、前項の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

を郵政大臣の指定する出納官吏及び前項の政令で定める者の指定する者に交付することができる。第一項の規定により郵政大臣が取り扱う事務について必要な事項は、郵政省令で定める。

(事務の委任)

第八条 一時金に関する処分についての異議申立ては、時効の中断については、裁判上の請求とみなす。

(時効)

第九条 一時金を受ける権利は、四年間行なわないときは、時効によつて消滅する。

(受給権の保護)

第十条 一時金を受ける権利は、譲り渡し、担保に供し、又は差し押えることができない。

(非課税等)

第十二条 一時金については、その支給を受けた者で昭和四十一年七月一日においてその支給を受けることができるものには、一時金として三万円を支給する。この場合においては、第四条及び第五条から第十二条までの規定を準用する。

第十三条 内閣総理大臣は、この法律の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十四条 この法律の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十五条 郵政大臣は、前項の規定により取り扱う事務を処理する場合において、特に必要があるときは、同項の規定にかかわらず、その事務の一部を政令で定める者に委託して取り扱わせることができる。

第十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第二十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第三十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第四十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第五十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第六十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第七十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第八十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第九十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十一条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十二条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十三条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十四条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十五条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十六条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十七条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十八条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百一十九条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

第一百二十条 一時金の支払に関する事務は、郵政大臣が取り扱うことができる。

和四十一年法律第 号の施行に関すること。

○木村委員長 まず、本案の趣旨説明を聴取いたします。

なお、参議院の修正部分についてても便宜あわせて説明を願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○木村委員長 御異議なしと認めます。

それでは、伊能繁次郎君。

○伊能議員 ただいま議題となりました旧勅章年金受給者に関する特別措置法案につきまして、そ

の趣旨の説明を申し上げます。

旧金鶴勅章年金令が明治二十七年勅令第一七三号によつて制定せられましたことは、御承知のとおりであります。その後、この年金令は昭和十六年に至り勅令第七二五号によりまして廢止せられましたが、同時にまた、この勅令により昭和十五年四月二十五日以前の叙賜者につきましては、旧令によつて年金は下賜されていたのであります。

しかるに、終戦後昭和二十一年三月に至りましたが、これらの勅章年金は、昭和二十一年十二月末を限りといたしまして、一切廃止せられることとなつて今日に至つておるのであります。

戦後二十年、この間幸いにわが国の経済は順調に再建発展いたしまして、国民生活も年一年と向上をたどりつつあるのであります。この間にあつて旧金鶴勅章年金受給者については、かつて支給されていました年金は打ち切られ、その経済的期待権を喪失し、不遇のうちに日々を送っている人々も多いのであります。よつて、御同情にたえないものがあります。よつて、本法律によりまして、これらの人々の待遇改善をはかるため特別の措置を講じ、あわせて勅等年金受給者についても、その年金額が現在きわめて少額で、受給者の大部分はわずか數十円という低額のものでありますので、これが改善措置を行なうとするものであります。

本法案の要旨を申し上げます。

旧金鶴勅章年金受給者については、昭和三十八年四月一日において日本国籍を有する者に対しまして、旧制の功級による区別なく、十万円の一時金を特別措置として支給しようとするもので、その認定は、これを受けようとする者の請求に基づきまして、内閣総理大臣が行なうこととしたしてあります。

勅等年金受給者については、昭和二十一年三月三十日内閣告示第九号により勅等年金を支給する旨の通知を受けた者で昭和四十二年一月一日においてその支給を受けることができる者に對しまして、一時金として三万円を支給することとしております。

なお、昭和四十一年分以降の年金は、支給しないことにしております。

本法案は、自由民主党及び民主社会党の共同提案により第五十一回国会に提出せられ、可決の後、参議院に送付、本院提出法案として参議院において継続審査となつておりますが、本日、修正を加え本院に送付せられてきたものであります。

なお、この際、便宜上私のほうからその修正部分について御説明申し上げますと、第一点は、一年金の支払いに関する事務の実施等について必要な事項は郵政省令で定めること。第二点は、勅等年金受給者に対する措置にかかる適用日を昭和四十二年一月一日とすること。第三点は、昭和四十一年分の勅等年金はすでに支給せられておりますので、これを四十一年分以降支給しないこととのであります。

何とぞ御賛成くださるようお願い申し上げます。

○木村委員長 これより請願の審査に入ります。

本委員会に付託されました請願は、本日の請願

日程に記載してあるとおり百八十二件であります。そのように決しました。

〔報告書は附録に掲載〕

○木村委員長 御異議なしと認めます。よつて、そのように決しました。

〔報告書は附録に掲載〕

○木村委員長 御異議なしと認めます。よつて、そのように決しました。

〔報告書は附録に掲載〕

○木村委員長 これより請願の審査に入ります。

本委員会に付託されました請願は、本日の請願により第五十一回国会に提出せられ、可決の後、参議院に送付、本院提出法案として参議院において継続審査となつておりますが、本日、修正を加え本院に送付せられてきたものであります。

なお、この際、便宜上私のほうからその修正部分について御説明申し上げますと、第一点は、一年金の支払いに関する事務の実施等について必要な事項は郵政省令で定めること。第二点は、勅等年金受給者に対する措置にかかる適用日を昭和四十二年一月一日とすること。第三点は、昭和四十一年分の勅等年金はすでに支給せられておりますので、これを四十一年分以降支給しないこととのであります。

何とぞ御賛成くださるようお願い申し上げます。

○木村委員長 これにて趣旨の説明は終わりました。

本案については、すでに第五十一回国会において審議を尽くしておるところでありますし、別段質疑及び討論の申し出もございませんので、直ちに採決に入ります。

○木村委員長 御異議なしと認めます。よつて、そのように決しました。

本日はこれにて散会いたします。

午後五時二十分散会

本案に賛成の諸君の起立を求めます。
〔賛成者起立〕

○木村委員長 起立總員。よつて、本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。(拍手)

なお、本案に関する委員会報告書の作成につきましては、委員長に御一任願いたいと存じます

が、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○木村委員長 御異議なしと認めます。よつて、そのように決しました。

〔報告書は附録に掲載〕

○木村委員長 閉会中審査に関する件についておはかりします。

本委員会といたしましては、

一、行政機構並びにその運営に関する件

二、恩給及び法制一般に関する件

三、國の防衛に関する件

四、公務員の制度及び給与に関する件

五、衆議院に関する件

以上の各案件について、閉会中も審査を行なうことができますよう、議長に対し閉会中審査の申し出をしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○木村委員長 御異議なしと認めます。よつて、そのように決しました。

本日はこれにて散会いたします。

なお、ただいま議決いたしました各請願に関する

る委員会報告書の作成につきましては、委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議ございませんか。

○木村委員長 御異議なしと認めます。よつて、そのように決しました。

〔報告書は附録に掲載〕

○木村委員長 なお、今国会におきまして本委員会に参考送付されました陳情書は、お手元に配付しておりますとおり、総数二十三件であります。

○木村委員長 なお、内閣総理大臣が行なうこととしたしてありますとおり、総数二十三件であります。

衆議院事務局 印刷者 大蔵省印刷局